令和4年度（2022年）《 第12号 》

貞香会 会報

2022 TEIKOKAI Annual Report

更に一歩進めよう

会長　赤平泰処

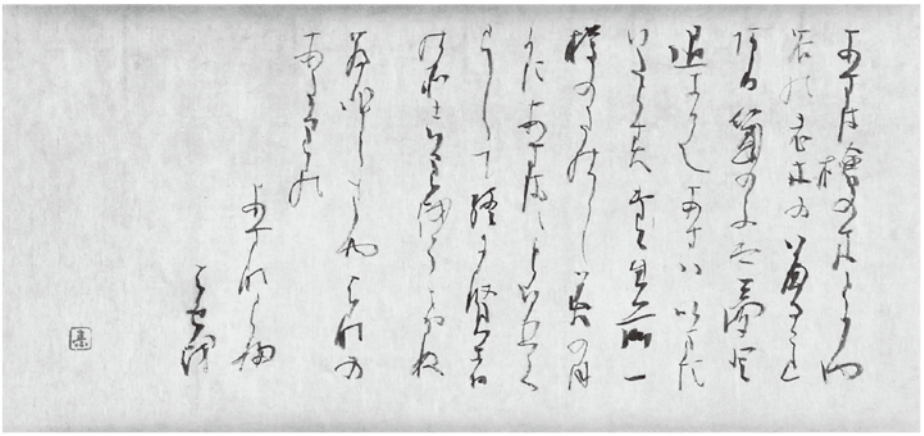
貞香会創立一〇〇年記念展は、会員の皆様のご協力により、無事盛大に終えることができました。懇親会も久し振りの盛り上がりで楽しい一時でした。コロナ禍、政情不安の中、よくできたと今更のように感慨深いものがあります。

特に担当に当たられた係の方、助言をいただいた諸先輩、理事の皆様の献身的な活躍には頭が下がり、感謝の気持ちでいっぱいです。一〇一年を迎え、着実に運営していけると心強く思います。

会場に設けられた中村素堂先生の一室は、清澄で凛とした空気が流れ、書の凄さが表現されており、いつまでもこの場に立っていたい、去り難い思いが募り、静観させられました。他の社中の先生方からは、「今に生きる古典だ。この部屋が一番新しい。」とのご意見・感想を数多くいただきました。

貞香の行くべき書の道はここにあります。まずはみなさんが頂戴した記念のクリアファイルに半紙をのせて臨書することから始めてみませんか。新しい発見があります。これが上達への一歩、実践してみてください。

先生の書の道への深い思いが伝わるような作に松尾芭蕉の笈の小文の〝あすならう〟があります。仮名と漢字が自然に調和し流麗で情感豊か、線の呼吸感が伝わります。「あすこそは檜木のような大木になろう。あすなろう、あすこそはなろう、なれないかもしれない、あすなろう」文意は何か寂しげだが、希望を持って書の道を歩めという先生からの伝言と私なりに理解しました。密やかで気品のある静かな作品で、私の好きなものの一つです。次の総合書展は会場が広くなります。精進、精進頑張りましょう。



中村素堂先生作品「松尾芭蕉句文」（1976年）

貞香会創立一〇〇年記念展を終えて思うこと

理事長　光谷素仙

創立一〇〇年記念展を終え、多々反省点もありますが盛会裡に無事終了することができました。これもひとえに各部署を担当された理事・監事・評議員の先生方を始め、貞香会の諸先生方・会員の皆様のおかげと深謝申し上げます。

記念展にあたり、創立者 中村素堂先生の特別展示や多くの書物・著書・業績等、また諸先輩方のお話を更に深く触れる機会を得、改めて素堂先生の「偉大さ」を再認識させられました。そして素堂先生にお会いしたことのない私にとりまして、「ぜひお会いしてお教えを請いたかった。」と思いを強くするばかりです。

貞香会創立一〇〇年回顧座談会（修美社）で、顧問の荒木先生が素堂先生随想集『筆間雑記』を再読し、素堂先生が貞香会および書作のあり方について書いているのを述べていらっしゃいます。心に残るその一部の要約を紹介しますと、「一つの団体が歩んで行くにはその団体を存続させる意義・主張・特色をもたなくてはならない。」「力のある団体を構成する人々は、筆勢・造形あるいは緩急の筆法に、会全体を流れる風格を示し、その風格を持ちながら自ら個性を表現しているのをみる。わが貞香会はゆずらない風格だけは維持して来たつもりである。」「古典を拠り所として一格毅然たるものを学ばんとしてきた。」「作品はその作者の心の美しさが必要であり、また格調の高いものは、それだけの鍛錬を重ねてでなければ本当に響くものになっていないこともわかってきた。」などです。

素堂先生の文章には、「風格」「格調」「個性」「古典」「学問」「鍛錬」「人間性」「文人性」という言葉が出てきます。創立一〇〇年の今年、素堂先生の著書を改めて読んでいただきたい。

現在（令和四年九月）コロナ禍、約二年半になりますが、その間会として活発な活動ができないまま経過してしまっています。この先のコロナ状況が明確に見えていませんが、会として左記のような活動を活発なものにしなければなりません。またいつの日か素堂先生の碑をめぐり、その碑を拓本にのこしていきたいとも思念しております。

① 他の書道会との更なる交流、会としての多く展覧会の積極的な見学・鑑賞
② 会員の親睦・コミュニケーション：合宿・錬成会・美術館鑑賞・臨書会
③ 会員展・教育（学生）展の充実

昨今、多くの書道会が直面している少子高齢化による会員減少の中で、創立一〇〇年を迎えた「貞香の書」がより一層の輝きを見せるために進むべき道は、素堂先生の創立の精神と、これまでの歴史と伝統、教え、書の心を踏まえながら継続し、他の書道会にない魅力ある独自性をもって新しいことに挑戦し、多くの人たちの共感・支持を得る会に発展させなければなりません。また、若い人を育て伝えていかなければなりません。会員皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただくとともに、ご協力をお願い申し上げます。

※座談会については、『修美』第41巻（二〇二二年八月号）掲載

令和四（二〇二二）年度　貞香会総会報告

令和四年度定期総会が、一月二十一日（金）午後三時から、東京都美術館講堂において開催された。

まず、根本泰邸副理事長兼事務局長より、平林大舒参与が昨年十二月二十一日にご遷化、中村素堂先生のご長女の笠松治子（みちこ）様が、本年一月十六日にご逝去されたことが報告され、出席者一同で黙祷を捧げた。

総会司会進行を鈴木蓮徑理事がつとめ、まず開会のことばで、光谷素仙理事長が「オミクロン株が猛威をふるっている中、感染対策をしながら総合書展をおこない、貞香会創立一〇〇年記念展では、貞香会の底力を見せてほしい。総会では、活発なご意見をお願いしたい。」とのコメントで、総会がキックオフされた。

赤平泰処会長挨拶では、「こういう時だからこそ、書道文化を見直す良い機会で、素堂先生が築いてくれた一〇〇年を大切にし、会員一人ひとりが一〇〇年を自覚して、記念展では心のこもった作品を発表してほしい。新しい書の世界を貞香会が先導していくんだという気持ちで臨んでほしい。一〇〇年に一回の素晴らしい展覧会なので、楽しんでほしい。」との旨を述べられた。

次に、司会者より委任状確認の報告があり、会員数二一六名の内、総会出席者十七名、委任状提出者一三七名　合計一五四名になり、総会成立と報告があった。議長には三浦看山理事が推薦・承認されて議事に入った。

先ず、第一号議案の令和三（二〇二一）年度事業報告が根本事務局長より、第二号議案の令和三（二〇二一）年度決算報告書が髙橋珠翠理事より報告され、飯野柳秈監事より、適正な監査を行った旨の報告があり、一括承認された。

次に、第三号議案の令和四（二〇二二）年度の事業計画案が、根本事務局長より説明され、第四号議案の令和四（二〇二二）年度会計予算案が髙橋理事より、一〇〇年記念事業予算案も含め提案され、一括承認された。議事はすべて承認され、滞りなく審議が終了された。

その他、根本事務局長より、二〇二三年度より五年間の東京都美術館会場が第三展示室とギャラリーA（地下）に変更になる旨と、貞香会創立一〇〇年記念展事業について、作品締め切りが例年より早まる件について説明があった。

最後に、光谷理事長が閉会のことばで締めくくり、総会が無事終了した。

【二〇二二年度役員名】

［顧　問］	荒木大樹	中村素岳	中村青藍	
［参　与］	大野宜白	奥山泰嶺	後藤鶴台	中谷春径
	晝間欽堂	松本宜響	室生大韻	八木舜堂
	若井香樹			
［参　事］	柏木南城	加茂泰玄	中村大如	中村東泉
	二木秀蔭	山根紅樹		
［会　長］	赤平泰処			
［理 事 長］	光谷素仙			
［副理事長］	坪内雪山	根本泰邸		
［事務局長］	根本泰邸			
［事務局次長］	鈴木蓮徑			
［理　事］	飯野彩心	今井泰篁	海野蒼秀	金子正信
	後上菁華	鈴木蓮徑	髙木素近	髙橋珠翠
	永井静軒	中村香柯	濱瀬碧水	半田桃香
	三浦看山			
［監　事］	飯野柳秈	長尾泰邨		
［評 議 員］	秋田谷岱空	石原翠山	加地香泉	

錬成会

２０２２年２月５日（土）・６日（日）の２日間にわたり、浦和の鵜毛堂錬成会場にて、コロナ感染対策を行いながら無事開催された。

早朝から参加者が集まり、根本泰邱事務局長の開校の挨拶で始まった。初日の講師は、赤平泰処会長がご担当で指導していただいた。隷書手本を書き始めると、その周りに集まり、「隷書の作品は躊躇なく線を引く」との赤平先生の一言に、熱心に耳を傾け、行草・詩文書などのお手本も続き、皆真剣なまなざしを向けていた。

二日目の講師は、中村素岳顧問がご担当で、初日同様定員いっぱいの参加者が集った。素岳先生が次々とお手本を書いてくださり、その合間に何度も作品講評もいただき、墨つぎや作品構成などのアドバイスを受けた。

赤平泰処先生によるお手本書き

中村素岳先生によるお手本書き

初日の集合写真

２日目の集合写真

錬成会の醍醐味は、やはり先生方の筆さばきを間近で見られることだ。両日とも講師の先生方が、終了間際までお手本を書いてくださり、またその都度、筆遣いや落款に至るまで事細かにご指導をいただき、充実した時間を過ごすことができた。

今回は日帰り錬成会だったが、コロナが収束したら、ぜひ宿泊錬成会も企画され、更に切磋琢磨できる場が設けられることを願っている。

'22 貞香会総合書展

'22貞香会総合書展（第一部役員展、第二部書範展）が開かれた。書範展の出品は師範部15点（昨年比⊕4点）、一般部119点（昨年比⊕2点）教育部274点（昨年比⊕26点）、半紙部247点（昨年比⊕35点）の合計655点で昨年より67点増であった。昨年12月8日に審査が行われたが、新型コロナの感染拡大のため授賞式が昨年に続いて今回も中止となった。しかし入場者数は連日予想を上まわる数で、準備した出品目録が足りなくなるのではと、心配するほど（事務局談）だったとのこと。これを6月の貞香書展につなげることが出来るか、期待されるところである。

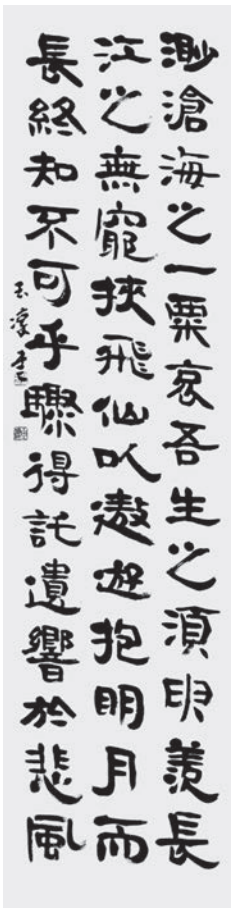
会場風景

◎「書のひろば」デジタル展覧会配信

2022年1月20日（木）～26日（水）東京都美術館で開催された「'22貞香会総合書展」に、毎日新聞社の三岡昭博 企画・事業部長が取材に訪れ、赤平泰処会長がインタビューを受けた。中村素堂先生が貞香会を創立して百周年を迎え、素堂先生の書に対する哲学や気骨ある硬質の書の追求について述べられ、また6月に国立新美術館で開催する創立百年記念の貞香書展へぜひ観覧いただきたいと、視聴者へ向けた熱いメッセージが語られていた。総合書展の作品とインタビューの模様は、毎日書道会のホームページ「書のひろば」で、動画が配信された。

'22 貞香会総合書展 書範展師範部（優秀作品）

貞香会会長賞　林　玉凜



隷書の運筆の丁寧な取り組みが深い趣を出した。奇異を求めず好感の持てる充実の作。（会長評）

貞香会会長賞　曽根信行

点画の確かさが豊かな墨量と調和した。線の抑揚と変化を出し、明るさを求めると更に飛躍する。（会長評）

◎昇格者

2022年度、規定により左記の方が昇格しました。おめでとうございます。

［委嘱］　壺井翠櫻　林　玉凜

［会友］　浅野照雄　岡　聖紅　田杭敬心　仲井月影

長瀬亮一　奈良田有亮　松野澄水

'22 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞
林　玉凛
曽根　信行

貞香会奨励賞
岡　聖紅
奈良田圭亮
横山絵美子

書範社賞
川口　杏苑
星野　玲香
奥備　愛

専心社賞
浪川　素光
武澤　朱里
浅野　照雄

特選
久保　龍鳳
宮村　枝翠
根本　悠彩
篠崎　雪花
小滝　洋一
原　美鈴
牛村ひろみ
大河内秀丸
江波戸泉蓉
雑賀　誠芳
長畑　裕子
壺井　翠櫻
邊見　順子
鈴木　彩香
山本　恵翠
田杭　敬心
田村　永春
大木　珠芳
高安　霞芳
宮田　寛子
藤井　泉桜
清水　秀峰

準特選
水須　涼華
大戸　幸江
黒須　蕙心
村田　良苑
栗栖　穂香
大久保優衣
濱谷　愛美
浜野　果保
髙木　春嶺
星　文子
米山　聖
竹村　崇邦
菊地　孝男
中村　仁秋
加茂田真緒
髙木　快道
松田　庄平
山内　開
向後　翠風
石井佳奈芽
村山　順子
荒井　良雄
山崎　百華
髙野　創
仲井　月影

秀作
渡邊　彩華
藤原　優子
髙田　明美
山内　俊子
鶴見　侑樹
伊藤　雪葉
奈良田有亮
角田　眞理
南城　秀子
本宮　柳絮
仲野　好重
齋藤　節子
荒木　弘文
渡辺　智宝
椛島　来未
佐藤　穂徑
海老原耶々
村田　良苑
栗栖　穂香
大久保優衣
濱谷　愛美
浜野　果保
髙木　春嶺
星　文子
米山　聖
竹村　崇邦
菊地　孝男
中村　仁秋
加茂田真緒
髙木　快道
松田　庄平
山内　開
向後　翠風
石井佳奈芽
村山　順子
荒井　良雄
山崎　百華
髙野　創
仲井　月影

入選
大村　良子
鈴木　京子
名護　敬子
三上　遥
田中　倖大
藤池　英華
高橋英美子
芳田　晏奈
中上　和美
福田香朱美
目黒　進
長瀬　亮一
中村　岳陽
佐藤　律子
山中　恵理
天野　素子
新田　昭雄
大塚那津子
滋野　綾菜
内山　富美
菊地　憲壽
ローゼンフェルド　朋子
桑原　廣雅
鈴木　寿子
吉澤　春美
上田　霞藍
村上　麻美
笹目　昭二
佐藤　広美
中島　楓乃
金井　美沙
田窪　青蘭
木下　嘉人
川名　美緒
押山　優菜
伊澤　心
上野　心優
片岡　貞子
山崎　明美
長田　晴海
中島　澄香
吉田　光陽
永見　和子
山崎　遥
飯島　章子
山本　幸三
宮川万理子
山口美津子
久米田　芽
宇敷　優花
藤咲　忠央
戸﨑　勝彦
山口　和彦
椎名　祥山
山口　佑珠
鈴木　翠鴻
大島　信由
杉田　悠輔
鈴木　寿子
吉澤　春美
上田　霞藍
村上　麻美
笹目　昭二
佐藤　広美
中島　楓乃
金井　美沙
田窪　青蘭
木下　嘉人
川名　美緒
押山　優菜
伊澤　心
上野　心優
片岡　貞子
山崎　明美
長田　晴海
中島　澄香

教育部

貞香会奨励賞
谷田貝美桜
伊澤　凛

書範社賞
渡邊　智香
松本　千尋
岩本　彩愛
清水　彩音
片桐　美心
澤野いろは

特選
大石　蒼馬
根本　心春
三上　敦大
折原　まゆ
浅利　紅
可知　櫂
照内　結子
松本　弘太
鈴木　夕理
住母家愛美
池田さくら
高屋　桃江
神戸　沙也
上野　優羽
中野　優結
大塚可南子
田上　愛瑠
齋藤　万純
上野　心音
伊澤　誠優
荒木　天花
清水　勇志
石嶋　千恵
伊藤　桃子
川口さくら
中川　夢叶
森田　航宇
北原菜々子
菅野　伶美
宮川　陽希
西原　佳穂
原　淳太
青木　崇真
松本　芽衣
鈴木　詩乃
古澤　樹季
伊澤　駿
小林　彩夢
鮎田　芽依
向後　実香

特別賞
中里　葵
齋藤　彩乃
大輪　美釉
住谷　和美
壽々木唯衣
泉田　絢音
谷田貝莉子
井上かれん
河野　優奈
古口　歩佳
鈴木　伶菜
篠崎　夢奈
近藤　美南
荒木　希
滑川　玲奈
青木　星夏
森田　愛徠
新井　遙斗
古作　愛子
稲見　幸星
早川　美紗
葭葉　香織
大庭　紗幸
福田　姫菜
長谷　大和
田口　蓮花
後藤　莉奈
外山　蒼
岡本　麻稟
関　斗真
村田　莉瑛
関　将斗
江波戸実歩
木内　希
村上　歩美
谷田部泰喜
嶋田　遥香
村田　琉磨
小川　夢結
神藤　真人
金杉　柚奈
加藤　雪乃
河野　蒼生
高橋　美礼
宮崎　虹采
若梅　陽菜
澤野　太一
関　洸太朗
大山　慎悟
澤部美乃里
長　里桜
江野　裟藍
ジョンソン　ライラ
陸川　日虹
村田　道
佐藤　誉真
住谷　結斗
葭葉　主税
金田　睦生
遠藤　心絆
石﨑　千咲
相原　一稀
森　奏也
岩城　愛梨
菊池　大洋
相澤　志維
白土　琴音
佐藤　豊優
寺田　環
片桐　和心
荒木　結花
林　琉聖
板橋　悠和
横山　愛夏
瀧崎　丈翔
高橋　健人
勝田ひかり
佐久間奏丞
佐藤　百花
加地和月真
菅野紘太郎
加藤　篤人
千葉　直輝
小峰　璃音
川村　琉佳
細野　仁
荒木　理
鈴木　美響
坂本　諒宗
八木橋太陽
福澤　実愛
山田美咲希
海老澤斗亜
鈴木　佑菜
小峰　奏人
大島　優太
八木橋朝陽
平塚悠太郎
白土　琴音
佐藤　豊優
寺田　環
片桐　和心
荒木　結花
林　琉聖
板橋　悠和
横山　愛夏
瀧崎　丈翔
高橋　健人
勝田ひかり
佐久間奏丞
佐藤　百花
加地和月真

秀作
香取つばさ
石井和香芭
山田　海里
小鹿　心菜
木明鼓太郎
塚本　真浩
向後　芽依
山田　朔矢
森戸　七海
佐藤　旦希
永吉　琴葉
関口　実来
和氣　駿祐
淺谷　珀虎
佐藤　初華
岩下　結菜
茂木　海夢
島村　美羽
古川　愛理
安部麻乃香
今野　真海
菅谷　樹乃
小松原紫月
長谷川　愛
佐藤　花
大久保来美
坂本　愛心
櫻井　実空
山田　美海
伊藤　航
生田目和季
淺野　華鈴
細野　怜
海野　怜香
松本　司
小川　愛結
古口　拓実
齋藤　由弥
清水　澪音
林　姫菜
秋山　桜典
小澤　魅穏
神藤　達也
菊池　百華
五十畑愛花
鈴木　颯真
長谷川　凛
工藤　花
可知　来生
工藤　隼
佐久間莉乃
佐藤　礼華
稲見　星空
飯笹　日菜
千葉　健斗
古川　花
名塚　悠之
寺塚菜々花
伊東和香奈
磯　愛莉
澤部美乃里
大山　慎悟
関　洸太朗
澤野　太一
飯島　悠翔
鈴木　月那
加藤　生奈
松島　凛
大島　優芽
篠原　夏美
安田　啓人
相原　一稀
森　奏也
岩城　愛梨
菊池　大洋
相澤　志維
伊藤　愛菜
大庭　成暁
篠原　葵唯
関口　結心
関　慎太朗
筒井　祐羽
永井　耕静
村田　奏永
安田　淳人
稲見　月星
長谷依千夏
川井　美颯
萩原　乙葉

佳作
栗栖　拓人
米川　真央
大和田凰太
安田　優花
佐々木琉偉
中里　遥
服部　真実
網中　愛友
利根川芽生
長　里桜
江野　裟藍
ジョンソン　ライラ
陸川　日虹
村田　道
佐藤　誉真
住谷　結斗
葭葉　主税
金田　睦生
遠藤　心絆
石﨑　千咲
相原　一稀
森　奏也
岩城　愛梨
菊池　大洋
相澤　志維
伊藤　愛菜
大庭　成暁
篠原　葵唯
関口　結心
関　慎太朗
筒井　祐羽
永井　耕静
村田　奏永
安田　淳人
稲見　月星
長谷依千夏
川井　美颯
萩原　乙葉

'22 貞香会総合書展　選抜大作展

2021年度、各書展において輝かしい賞を受賞された方々による選抜大作展を併催した。

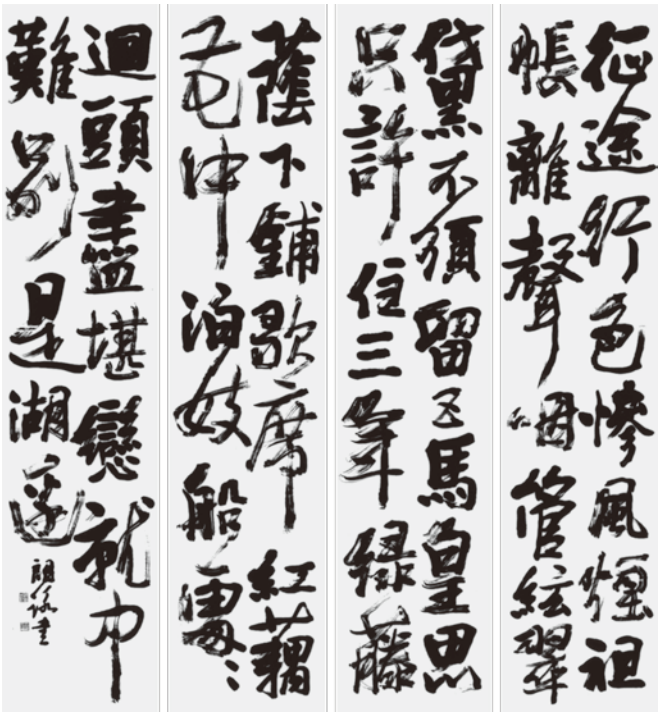
〔出品者〕
大塚澄心（第72回毎日書道展　漢字Ⅰ類 毎日賞）
岩渕響泉（第55回貞香書展 特別賞・審査会員推挙）
近藤朗詠（第55回貞香書展 特別賞・審査会員推挙）

大塚澄心先生

8尺×2尺×4

岩渕響泉先生

8尺×2尺×4



近藤朗詠先生

8尺×2尺×4

会期　3月25日(金)～31日(木)
会場　東京都美術館

第63回東方書展報告

中村青藍

コロナ感染予防に注意を払いながら「第63回東方書展」が令和4年3月25日から31日まで、東京都美術館にて開催されました。しかしコロナ禍の影響は依然として大きく、心配された出品点数は、同人300点、準同人123点、一般公募252点で、総数は前回比で44点減の675点でした。

貞香会の出品点数は同人45点、準同人4点、公募第1部17点、同第4部2点で、合計は前回より7点減の68点でした。入賞作品は、同人推挙に永井静軒さんが受賞され、一般公募作品からは推薦に横張瑞泉さんが、褒状に5名の方々が受賞されました。

今回の入賞により横張瑞泉さんと中田翠苑さんが規定により準同人に昇格されましたこと、併せておめでとうございます。

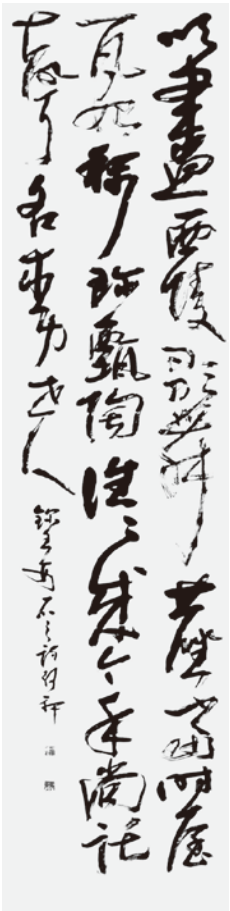
今回の企画展示の「東方先人の手本展」において中村素堂先生、尾上紫舟・松本芳翠・松井如流・大石隆子各先生からなる10名の先達の先生方の範書が鑑賞できました。

又「東方選抜展」の大作に、当会から赤平泰処先生、今井泰篁先生に小生が出品しました。

来年の第64回展から会場が1室増えて4室になります。次回展に向けて早めに取り掛かり、多くの方々が力作を出品されます事をお願い申し上げます。

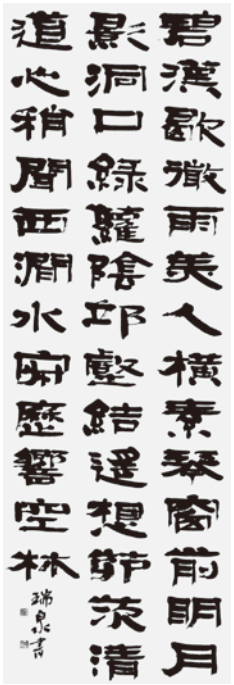
第63回 東方書展（優秀作品）

同人推挙　永井静軒



無理のない自然な流れが表現された。洗練された字形と線質で目を耕し、会の木鐸となってほしい。
（会長評）

第一部　特選　横張瑞泉



隷書の均整で深い趣がよく出た。公募一席推薦は立派。丁寧で素直に書き上げた表現が良かった。
（会長評）

◎第63回東方書展 入賞者

同人推挙　永井静軒
第一部　推薦　横張瑞泉
　　褒状　阿部泰悠　江藤静蘭　髙橋桂秈　中島翠音
第四部　褒状　中田翠苑

第63回 東方書展 《ダイジェスト》

◎「同人推挙」作品解説

第63回東方書展が2022年3月25日（金）～31日（木）まで東京都美術館で開催。初日11時より展示場内にて「同人推挙」受賞作品の解説が行われた。漢字部は、赤平泰処先生が進行役で、特別賞受賞作品について作者の制作意図を伺いながら、注目すべき点について解説し、また同人推挙作品解説の中で、「三行ものの行草、大らかで自然に流れ、潤渇の表現が豊かと評価を得た」と永井静軒先生の作品を称えた。受賞者の皆さんの喜びと笑顔がとても印象的だった。

作品講評される赤平先生

作品解説会場の様子

◎授賞式

3月27日（日）午前11時より、東京都美術館講堂にて授賞式が執り行われた。授賞式終了後、貞香会受賞者と関係者で記念撮影し、受賞の喜びを分かち合った。

受賞者の皆様、誠におめでとうございます！

受賞者の皆さん

◎企画展示「選抜展」解説

3月27日（日）午後2時より、展示会場にて東方書道院理事11名および選抜6名の作品解説が行われた。大勢のギャラリーの中、当日出席された赤平泰処先生は「白を鮮やかに出すことを念頭に」、中村青藍先生は「石門頌をベースに」、今井泰篁先生は「のびやかな線質をテーマに」と、それぞれ自身の作品について制作意図などについて解説された。

なお、「東方先人の手本展」解説は感染症対策のため中止となったが、10名の東方書道院を創設・けん引した先人方の折手本類の書がガラスケースに陳列され、中村素堂先生の折手本6点と『貞香軒款識』（昭和29年発行）が展示され、古典を学ぶ大切さを私達に示してくれた。

赤平先生解説

中村先生解説

今井先生解説

◎昇格者

第63回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より昇格になります。おめでとうございます。

〔同　人〕永井静軒

〔準同人〕中田翠苑　横張瑞泉

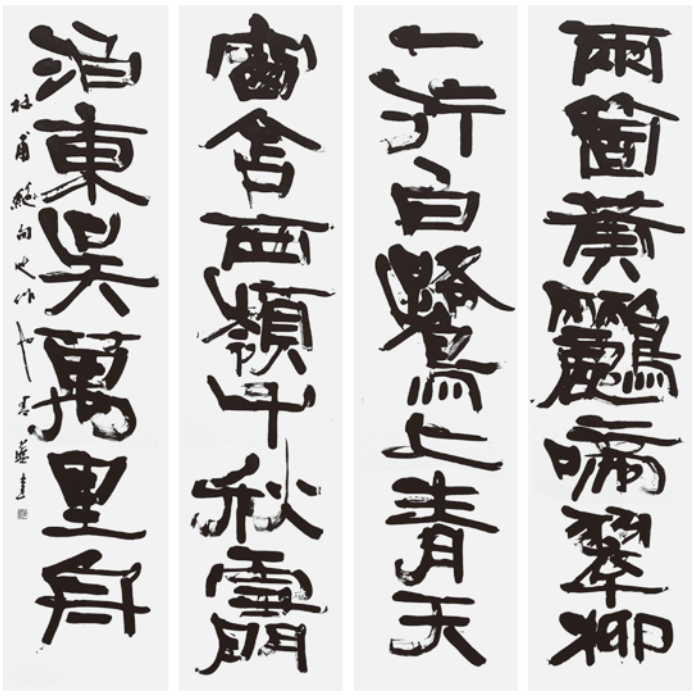
第63回 東方書展 《ダイジェスト》

◎企画展示「東方書道院選抜展」

東方書道院理事11人と選抜された6人による大作展が開催され、見ごたえのある作品群が展示された。貞香会より赤平泰処先生、中村青藍先生、今井泰篁先生が出品された。

赤平泰処先生

182×91cm×3



中村青藍先生

280×70cm×4

今井泰篁先生

230×80cm×4

創立100年記念 第56回 貞香書展

第56回貞香書展審査所感

松本宜響

貞香会創立一〇〇年記念 第56回貞香書展が令和4年6月29日(水)から7月11日(月)まで国立新美術館3A会場で開催されました。令和2年から続くコロナ禍で本年の実施も心配されましたが役員の先生方の熱意と周到な準備で記念行事も含めて立派に開くことができました。

総出品者数は昨年と同様238点。創立一〇〇年であることを考えると点数増を期待したところでしたが、まだまだコロナ禍の影響があり、同数という結果は残念なことではありました。

公募1部2部の出品は、1部が会友と合わせて51点、2部も同じく51点の出品でした。審査は6月19日午前10時20分より新国立美術館地下1階B2審査室で15人の審査員で行われました。午前中に1部2部ともに鑑別を行い、休憩の後審査に入りました。その結果公募1部特選4点、準特選8点、秀作17点、高校生奨励賞7点が決定し、公募2部は特選4点、準特選8点、秀作16点、高校生奨励賞2点が選出されました。

今回の公募作品の傾向は例年と同じく行草書体が多く、そこに隷書体の作品が見られるというような感じでした。作品的にはそれぞれが工夫努力しているようにも見えましたが、赤平会長が表彰式の講評で述べられていたように、師匠の単なる物まねではなく、師匠の求めたるところを求めよ、とおっしゃっていたことが心に残りました。

書の基本は何といっても臨書です。臨書を通して、書の線を鍛え、半切や二尺六尺の紙に向い、書き込んでいけば、作品に明るさ強さが生まれ、人に感動を与えられる作品になってきます。臨書に普段から心がけましょう。そうすれば文字の大小や墨の潤滑、空間の処理などの作品構成にも目が向いてさらに良いものになってきます。目習い、手習い、臨書が基本です。貞香の書をともに求めて行きましょう。

松本宜響先生

8尺×2尺×2

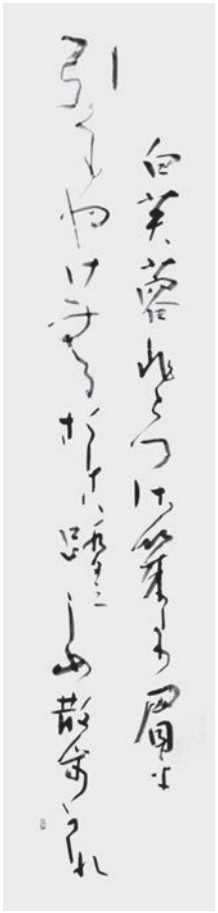
創立100年記念 第56回 貞香書展(優秀作品)

特別賞・審査会員推挙　浦野西萌

字の大小の変化がよく調和し、一貫性が出た。
これからは字形の安定と線の鍛練を。

(会長評)

特別賞・審査会員推挙　日向野光苑



自詠の歌、線の流れに独自のものがあり、響き合う点画が自然に表現された。

(会長評)

創立100年記念 第56回 貞香書展受賞者

特別賞・審査会員推挙　浦野西萌　日向野光苑
推薦・会員推挙　青木香蕗　江原覺堂　柿沼陽和　北井杏怜　原田豊蘭

公募1部
■特　選
漢字多字数部門　奈良田有亮　佐藤穂徑　奥備　愛　長瀬亮一
■準特選
漢字多字数部門　奈良田圭亮　吉田幸代　小山真裕美　藤原櫻泉　伊藤ゆうか
星野玲香　小山綾香
漢字少字数部門　川本桃子
■秀　作
漢字多字数部門　鶴見侑樹　武澤朱里　原　美鈴　大河内秀丸　曽根濤青
荒井良雄　押山優菜　中東敬子　塩濱花菜　浅野照雄
内山富美　松本芳琇　岡　聖紅　田杭敬心　滋野綾菜
高木快道　大塚可南子
漢字少字数部門
■高校生奨励賞
漢字多字数部門　上野心優　泉田絢音　渡邊智香　伊澤　心
漢字少字数部門　伊澤　凛　上野優羽　篠﨑夢奈

公募2部
■特　選
漢字多字数部門　山口和彦
漢字少字数部門　松田庄平　中上和美
仮名　部　門　小仲佳代子
■準特選
漢字多字数部門　大澤太郎　瀧澤理子　山中恵理　小滝洋一　市村星華
漢字少字数部門　吉岡紀子　斎藤龍生　芳賀姫佳
■秀　作
漢字多字数部門　髙橋英美子
漢字少字数部門　芳田晏奈　梅澤恵子　山﨑　遥　石井佳奈芽　椎名祥山
遠藤真佐美　伊草かおり　藤咲忠央　渡邊彩華　浜野果保
萩原柊花　角田眞理　竹田睦子　飯島章子
詩文書部門
■高校生奨励賞
漢字多字数部門　門脇　花
漢字少字数部門　栗栖穂香

創立100年記念 第56回 貞香書展《ダイジェスト》

◎記念展に伴う特別審査実施

2022年6月19日（日）10時より、六本木の国立新美術館地下1階審査会場にて、厳正に行われた。今年は記念展に伴い、外部審査員に東京国立博物館研究員の六人部克典先生をお招きし、特別賞・審査会員推挙の選考をお願いした。また、一般公募の審査については各審査員が一点一点慎重に作品を精査し、審査していたのが印象的だった。

特別賞選考作品を解説する六人部先生

公募作品を見つめる審査員

◎昇格者

第56回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔審査会員〕　浦野西萌　日向野光苑
〔会　員〕　青木香蕗　江原覺堂　柿沼陽和
北井杏怜　原田豊蘭
〔委　嘱〕　川本桃子　鶴見侑樹　長瀬亮一　奈良田有亮
藤原櫻泉　松本芳琇　山本恵翠
〔会　友〕　大木珠芳　奥備　愛　小山真裕美　佐藤穂徑
中上和美　星野玲香

創立100年記念　第56回 貞香書展《ダイジェスト》

◎特別展示：中村素堂先生遺墨展

貞香会創立百年記念事業として創設者・中村素堂先生の遺墨展を開催。名刹寺院に収蔵されている代表作を含む11点の作品が陳列された。貞香会百年の歩みとともに、素堂先生が出版された貴重な本の数々が展示され、好評を博した。

中村素堂先生作品（大本山高尾山薬王院蔵）

また、役員によるギャラリートークが展示場内にて行われ、素堂先生との思い出話から、素堂先生のこれまでの功績や貴重なエピソードを聴くことができた。

【解説者】
6月30日（木）赤平泰処先生
7月1日（金）荒木大樹先生
7月2日（土）松本宜響先生
7月3日（日）中村青藍先生

作品解説風景

◎講演会

六人部先生による講演

6月29日（水）11時より、美術館講堂にて、特別講演を開催。講師に六人部克典先生（東京国立博物館研究員）をお招きし、演題「中国書画コレクションの伝統と日本」について、ご講演いただいた。コロナの影響で三年ぶりの開催に、聴講者が熱心に耳を傾けていたのが印象的であった。

◎席上揮毫

6月29日（水）14時より、美術館講堂にて、席上揮毫を開催。揮毫者は、中村素岳顧問・赤平泰処会長・光谷素仙理事長・鈴木蓮徑理事。気迫ある揮毫の様子は、大変見ごたえがあり、来場者を感動させた。

揮毫された先生方

創立100年を祝い笑顔で集合写真

◎祝賀会

7月2日（土）18時より、ホテルグランドアーク半蔵門にて、記念祝賀会を119名の出席者で開催。久しぶりの会員同士の懇親の場に、笑顔があふれ、「創立百年を皆でお祝いできてうれしい」と喜びの声がたくさん聞こえてきた。ピアノ演奏や思い出のインタビュー、豪華景品の抽選大会に大いに盛り上がり、最後は全員で集合写真。盛会裡のうちに、無事に終了した。

祝賀会の様子

第73回 毎日書道展 《ダイジェスト》

第73回 毎日書道展審査所感

中村 香柯

引き続きコロナ対策の中、第73回毎日書道展が開催された。

総出品数は二七、七〇〇点、公募は二四、一一七点、漢字部一〇、六二七点の出品があり、昨年より二七六点の減少でした。その中で漢字Ⅰ類は会友を除いた約三、〇〇〇点の作品が審査の対象となり、圧倒的にⅡ類への出品が増えてきている。

貞香会の出品数は会友を含め一三三点、昨年より一二点減、U23は一七点、六点の増でした。ご出品いただいた皆様の熱意と努力にお礼を申し上げます。

審査は25名の審査員の挙手で、五月二十七日、二十八日の二日間にわたり鑑別審査がマクリ（未表装）で行われた。まず初日、U23の審査から始まり一般公募へと進められた。審査は一ラウンド20分で200～230点の作品を鑑別するため、一点あたりの時間は五秒に満たない。一瞬に判断を下すため、作品構成が大きく左右してくる。

初めて審査の任にあたり、他会派との書風の違いのなかで、貞香の書がどのような評価をされるのか不安の中、審査に臨んだがあまり手が挙がらず、得点は伸びない。今年の入選ライン55％という前提の中、本会は47％という平均値を下回るやや残念な結果となった。

高評価を得た作品の傾向は、行草の四行、五行の多字数、字形を偏平にした隷書、墨量のバランスや線質、明るい動きのある作品に票が集中した。又、毎日展の審査に合わせたような少しオーバーとも思える工夫を凝らした作品造りや、色用紙も目についた。

貞香会の入選作品に見られる線の強さ、隷書も評価を得ていた。又、作品を通して表現力や明るさ等を課題に、当会の書を見つめなおす機会となった。

七月の本審査は、先の入選作（A入選）の表装された作品の中から入賞が決定された。

当会では毎日賞に上野泰僊さんが受賞、秀作賞に二名、佳作賞に五名、U23奨励賞に一名が入賞された。

入選、入賞された皆様おめでとうございます。また来年の毎日展、目標に向かってより向上した作品ができますように、一人でも多くのご出品をお願いいたします。

漢字部Ⅰ類当番審査員　中村香柯先生

8尺×2尺

第73回 毎日書道展 入賞入選者・役員

【漢字部入賞】

毎日賞　上野 泰僊
秀作賞　岩崎 芳穂　近藤 朗詠
佳作賞　石原 翠山　髙木 素近　青木 香蕗　亀和田郁芳　光田 秀穂
U23奨励賞　奥備 愛

【入 選】

一般Ⅰ類
青木 香蕗　浅野 照雄　阿部 泰悠　荒井 良雄　荒木 憲子　岩淵 響泉
上坂 木蘭　浦野 西萌　江藤 静蘭　大芦 卿雲　岡 聖紅　柿沼 陽和
金子多恵子　川島 幸司　北井 杏怜　草間 篁山　小山 綾香　近藤 朗詠
佐藤 穂徑　鈴木 英男　関根 熙雲　高木 春嶺　田辺 由美　塚山 清峰
壺井 翠櫻　冨田 希　長尾 貫清　中島 翠音　長瀬 亮一　長畑 裕子
根布谷翠紅　福田 柳嵯　邊見 順子　保坂 登志　松下 彩虹　峯岸 妙觀
村山 順子　山崎 香彩　吉田 幸代
塩野 洋子
伊藤ゆうか　押山 優奈　奥備 愛　鶴見 侑樹　奈良田有亮　奈良田圭亮

一般Ⅱ類
U23

【役 員】

理事・総務部長：赤平 泰処
漢字部運営委員：荒木 大樹
漢字部Ⅰ類当番審査員：中村 香柯
漢字部搬入整理担当委員：髙橋 珠翠（主任）
漢字部鑑別審査委員：大塚 澄心　加地 香泉　今井 泰篁
漢字部入落委員：後上 菁華
漢字部審査部委員：根本 泰邱　鈴木 蓮徑
陳列部委員：根本 泰邱（副部長）　飯野 柳秈

第73回 毎日書道展 《ダイジェスト》

◎表彰式

令和4年7月13日（水）から8月7日（日）まで4期に分けて国立新美術館で、7月18日（月）から24日（日）まで東京都美術館で開催された。コロナ禍は未だ終息の兆しが見えない中、感染症対策を講じられた展覧会となり、躍動感あふれる作品が会場を飾った。

表彰式は、7月24日（日）東京・芝公園のザ・プリンスパークタワー東京にて、昨年同様人数制限のうえ執り行われ、同時にライブ配信もされた。赤平泰処会長が、毎日書道会の総務部長として挨拶に立たれ、受賞者へ賞状授与も行った。

貞香会からは、毎日賞受賞の上野泰僊さんとU23奨励賞の奥備愛さんが、表彰式会場に参列した。

賞状を授与する赤平会長

赤平会長（中央）と入賞した
上野泰僊さん（右）と奥備愛さん（左）

◎第73回毎日書道展所感

赤平泰処

貞香会の書はまだまだ鍛錬が足りません。妥協のない厳しい姿勢が必要です。鍛え上げた線、形の安定、運筆のリズム、作品としての効果的表現、視野を広げて、他の社中との比較、古典を学ぶことが不足しています。もっと謙虚に書の世界をしっかり持って挑戦者であることを忘れず、臨書で豊かな表現を学んでほしいと思います。

◎毎日書道展役員作品

毎日書道展総務部長　赤平泰処先生

毎日書道展参与会員　中村素岳先生

毎日書道展運営委員　荒木大樹先生

第73回 毎日書道展（優秀作品）

■漢字Ⅰ類

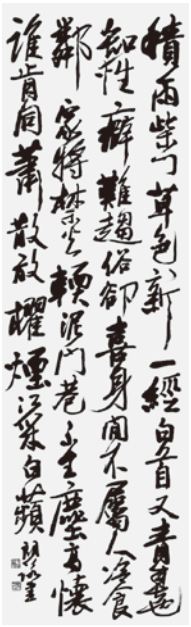
〔毎日賞〕 上野 泰儽

強く正確な筆線が造形の安定感生み、全体的まとまりが際立っていた。（会長評）

〔秀作賞〕 岩崎 芳穂

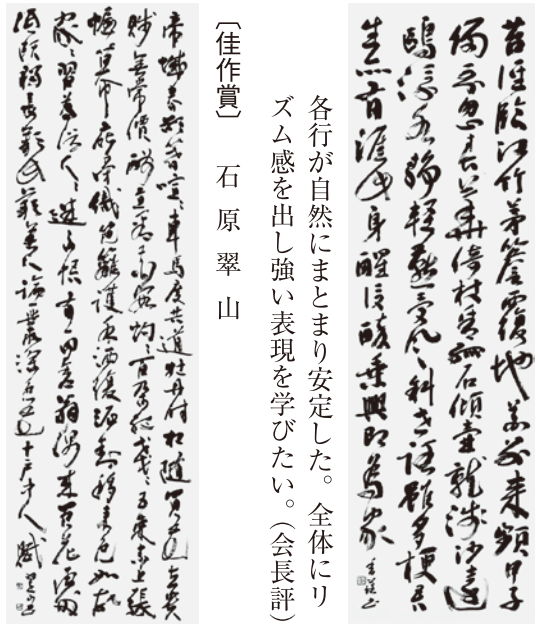
字形の充実感がよく出た線を鍛えて全体としての爽やかな表現を学びたい。（会長評）

〔秀作賞〕 近藤 朗詠



点画の運筆が効果的で強い表現となった。古典への憧憬が香るような作を期待したい。（会長評）

〔佳作賞〕 青木 香蕗



各行が自然にまとまり安定した。全体にリズム感を出し強い表現を学びたい。（会長評）

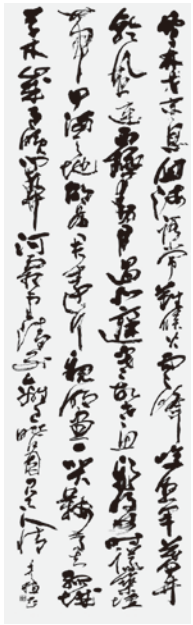
〔佳作賞〕 石原 翠山

多字数の美しさが出たが字形の安定感がちょっと不足した。安易に流れないように。（会長評）

〔佳作賞〕 髙木 素近

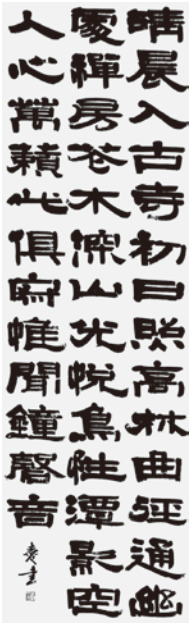
一字一画への配慮がなされ、全体としての統一感が生まれた。悠然とした大きな表現も学んでください。（会長評）

〔佳作賞〕 光田 秀穂



学んできた表現方法へのこだわりがよく出た。もっと広い視野で堂々とした趣も。（会長評）

〔U23奨励賞〕 奥備 愛



隷書の整正な美しさがよく表現された。更に先を目指して深い線の勉強を。（会長評）

■漢字Ⅱ類

〔佳作賞〕 亀和田郁芳

埋没した点画の表現もここから一歩前進できるかどうかできまる。澄んだ美しい迫力に期待する。（会長評）

◎昇格者

第73回毎日書道展受賞および毎日書道会の規定において、次の方が昇格されました。誠におめでとうございます。

〔会　員〕 上野　泰儽

〔会　友〕 北井 杏怜　冨田　希　長尾 貫清
保坂 登志　山崎 香彩

掲載散歩

２０２２年度、毎日新聞などに掲載された記事をご紹介いたします。

書の世界

題字・金子鳴亭

第56回貞香書展　100年の歴史を再確認

第56回貞香書展（7月11日まで、東京・六本木の国立新美術館）は、貞香会の創立100年を記念して、歴史を再確認し新しい歩みを踏み出そうという決意が感じられるのではないか。

貞香会は1923年、中村素堂（1901～82年）が創設。硬質の書を信条として、新文人主義、仏教を根底にした書を追求し続けてきた。その理念を理解してもらおうと、素堂の遺墨が特別出陳されている。

「虚室生白吉祥止止予最愛斯語凡人……」▽「鵞波濯足柳維舟　閲盡滄江到白頭」▽「身是華陽陶通明　朝々樓上聴松聲」＝写真1▽「フエルガナゆ脚なが馬に騎しきつる……」▽「不讀東魯書爭會西來意」＝同2▽「あすは檜の木とかや谷の老木の……」▽「貧偈高人遠々来　不嫌幽逕滑於苔……」＝同3＝など、深々とした教養を基盤として言葉を選び抜き、瀟洒さえ感じさせる自在な線を駆使して定着させた書に、戦士還家盡錦衣……」▽中村素岳さん「柳陰濃綠全遮暑　荷葉清香却勝花」▽松本宜響さん「清浄光」＝同6▽若井香樹さん「これは仏名を書けば……」▽光谷素仙さん「雲横樹外山樹映山顕月……」▽根本泰邱さん「路廻荒山開　如出古塞門……」▽鈴木蓮徑さん「眼處聞聲」など、中核書人が新しい何かを希求して伸びやかに筆を動かしている。素堂師の豊かな精神的世界への強い憧れが、今後の実りとなるよう願わざるを得ない。

一方、書・中野北溟教室第18回展（7月3日まで、札幌市民ギャラリー）は、中野北溟さんの透徹した学書の手法に出品者が向き合っている。

中野さん「明日死ぬかのように……」＝同7、「蘭亭叙」▽加藤幸道さん「木簡　扁書亭」▽石原北陽さん「金文」▽大川宣子さん「多宝塔碑」▽柏聡さん「興福寺断碑」▽佐藤昭子さん「虹……」▽大上凌胡さん「紫の海」▽山元昭子さん「蒼海の……」＝同8▽吉田三枝子さん「此」＝同9＝など、出品者の真摯な創作態度が印象に残るのでは

作品に気迫満ちる

第56回貞香書展

第56回貞香書展が6月29日から7月11日まで東京・六本木の国立新美術館で開かれた。貞香会創立100年、創設者の中村素堂さんの遺墨展も併催、会長の赤平泰処さんはじめ幹部役員の気迫に満ちた作品が会場を飾った。

中村さんの特別出陳の作品は「身是華陽陶通明　朝々樓聴松聲」はじめ「虚室生白吉祥止々予最愛斯語凡人…」、「鵞波濯足柳維舟…」など雄渾で気高い硬質な作品が披露され来場者の心を打った。

赤平さんは「清晨掃几賞心幽　鎮日臨池夕未休…」を流れる運筆で制作。光谷素仙さんは「雲横樹外山樹映山顕月…」、荒木大樹さんは「温故知新」、中村青藍さんは「越王句践破呉歸…」、中村素岳さんは「柳陰濃緣全遮暑…」、松本宜響さん「清浄光」、根本泰邱さんは「路廻荒山開　如出古塞門…」、鈴木蓮徑さん「眼處聞聲」など。現代の書の競演となった。「創設100年を迎え、伝統の貞香会の力を見ていただけるいい記念展となった気がします」と赤平さん。記念講演会、揮毫会、作品解説なども開かれ多くの書道ファンが駆け付けた。

中村素堂記念賞を鈴木蓮徑さんが受賞した。

見ごたえある作品のそばに立つ赤平さん

運筆鋭い作品ずらり

貞香会総合書展開催

貞香会総合書展が1月20日から26日まで東京・上野の東京都新美術館で開かれた。書芸術の創造を掲げて創設された伝統ある書展で今年も運筆鋭い風格ある作品が並んだ。会長の赤平泰処さんは「九天雲静鶴飛高」、光谷素仙さん「梅初破蕾行江路…」、中村青藍さん「新月細如眉　春雲長似帯…」、松本宜響さん「学書有道興縦横　先察帖碑千古情…」、中村素岳さん「心静興長、荒木大樹さん「気概通疎　性霊豁暢」、根本泰邱さん「秋盡寒山出　巌人不可留…」、鈴木蓮徑さん「静黙有遠志」など。造形美、冴えわたる線質で仕上げた作品が多く、話題となった。

品格ある作品が好評で満足する赤平さん（左２人目）

5日間で来場1200人超

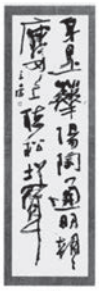
「東北仙台展」閉幕　入賞者ら顕彰式

仙台市で開かれていた、第73回毎日書道展の地方巡回展「東北仙台展」（毎日新聞社・毎日書道会主催）が23日、閉幕した。5日間で1200人超が訪れ、約900点の作品を鑑賞した。

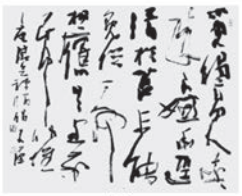
この日は、いずれも毎日書道会理事の赤平泰処氏と小竹石雲氏が第1会場のAER（アエル）で筆をふるった。赤平氏は「福を受けること限りなし」を意味する漢字4文字の篆書を揮毫し、「みなさんが福を受けられますように」と語りかけた。小竹氏は、ノーベル文学賞の受賞の知らせを待つ川端康成が揮毫したという一文を披露し、「今日の私の心境と同じ。筆を持って落ち着ければいいと思いました」と語った。

入賞者らの顕彰式も開かれ、71人に賞品が手渡された。初入選した仙台市の大学2年、引田真由さん(20)は「中学2年の時に同級生に誘われて書道教室に通い始めた。師範を目指して頑張りたい」。同級生の外門美佑紀さん(19)は2度目の入選を果たし「小学1年から書道を始め、書いているうちに好きになった。筆で自分の思いを表現できる」と話していた。【石丸整】

書を披露する赤平泰処氏＝仙台市青葉区のAER５階で


1

2


3

4

5

6

7

8

9

魅了されるのではないか。
現役組はどうか。
赤平泰処さん「清晨掃几　賞心幽　鎮日臨池夕未休…」＝同4▽荒木大樹さん「温故知新」＝同5▽中村青藍さん「越王句践破呉歸ないか。また、伊藤泰子さん「草しげる……」▽紅林幸子さん「夏がくれば……」▽千葉和子さん「たそがれて……」など、かな書人の競演も見どころだろう。【桐山正寿】

令和4年7月21日　毎　日　書　道

創作意欲満ちた
新作を展示
泰志之会書展

みなさん、力を付けました、と笑顔の鬼頭さん（中央）

第28回中国への書の研修視察団の第3回泰志之会書展が7月5日から9日まで東京・竹橋のアートサロン毎日で開かれた。第65回毎日書道展会員賞、毎日賞、U23毎日賞受賞者の書展。鬼頭墨峻さんを団長に18人が、上海、長沙、岳陽、湖北省赤壁、荊州、武漢、北京などを視察した。書展では、鬼頭さん「洪水滔天鯀窮帝…」、宮本博志さん「遠浅の海に満ちたる輝きか…」、伊藤柳静さん「馬ぼくぼくわれを絵に見る…」、大竹美喜さん「君が望むならそれは強く応えてくれるのだ…」、川本大幽さん「秋の日の光り輝く薄の穂…」、松崎礼文さん「山昏」など。創作意欲に満ちた新作が展示された。

（大塚澄心先生出品）

毎　日　書　道　令和4年9月30日

中国への書の研修視察団
第22回メンバーが書展

第22回中国への書の研修視察団のメンバーによる第3回飛泰会書展が7月21日から24日まで東京・銀座の大黒屋ギャラリーで開かれた。第59回毎日書道展会員19人が、平成19年10月1日から8日まで萊州、曲阜、泰安、済南、北京などを視察した。北京で開催された第2回日中女流作品展を鑑賞、祝賀会に出席した。書展では、石飛博光さん団長、赤平泰処さん副団長で構成された石飛さん「石原八束の句」、赤平さん「坦懐…」、佐野玉帆さん「からにしき…」、大八木耕一さん「白い花」、遠藤慶光さん「耕心齋」など。創意に富む新作が展示され、話題となった。

旅の思い出を語り合う石飛さん（前列中央）と赤平さん（前列左2人目）

（赤平泰処先生・中村青藍先生出品）

中文導報　CHUDAO
2022年11月10日（星期四）
艺苑撷英
第1406期 22

毎日书道会专务理事西村修一（左3）、参展书道家有冈陵崖（左4）等合影。

（日中書道交流展―日中国交正常化50周年記念　赤平泰処先生出品）

洗碑会

令和4年5月2日(月)、コロナ禍で中止を余儀なくされていた洗碑会が、2年ぶりに開催された。今年は、傳通院の客殿で荒木大樹顧問が昭和45年に拓本を取られたという中村素堂先生揮毫の「金子得處先生頌徳碑」を披露され、参加者で鑑賞し、貞香会の研修旅行で山形にある原碑を見に行ったことが思い出された。

また、平成7年2月5日に挙行された記念碑「如是我聞」除幕式のビデオ映像を根本泰邸事務局長がパソコンで放映し鑑賞した。除幕式は、貞香会創立70年・貞香会展30回を記念して執り行われ、阪神淡路大震災直後であったため、淡路島より石碑の運搬に大変なご苦労があったという。映像には、当時の理事長・長谷川耕心先生や、顧問の古澤素雨・佐藤中処両先生などの懐かしいお顔が見え、改めて中村素堂先生の功績と貞香会をけん引してきた先生方のご尽力の上に、貞香会創立百周年を迎えられることを実感した。

拓本鑑賞風景

定刻になり、今井泰篁理事の進行で洗碑会が開始され、赤平泰処会長より「中村素堂先生がなくなって40年が経ちました。この日にこの碑に出会える喜びを感じ、碑を見て作品制作に専念する力をもらうような気がします。またこの日は素堂先生の心の教えを一人一人が確認する日でもあります。今年は貞香会創立百年記念の展覧会をぜひ成功させましょう」と述べられ、洗碑の儀式に入った。最後に、参加者全員で菩薩願行文を称え読経し、記念撮影をして無事に閉会した。

(飯野彩心記)

参加者による記念撮影

〈２０２２年度事業報告〉

主な展覧会

○２０２２年度定期総会

日時：２０２２年１月21日（金）15時～
会場：東京都美術館講堂

○'22 貞香会総合書展

会期：２０２２年１月20日（木）～26日（水）
会場：東京都美術館

○第63回東方書展

会期：２０２２年３月25日（金）～31日（木）
会場：東京都美術館
☆企画展示「東方書道院選抜展」
赤平泰処先生・中村青藍先生・今井泰篁先生出品

○創立１００年記念 第56回貞香書展

会期：２０２２年６月29日（水）～７月11日（月）
会場：国立新美術館

○第73回毎日書道展　東京展

会場：国立新美術館
会期：前期展Ⅰ期２０２２年７月13日（水）～18日（月）
前期展Ⅱ期２０２２年７月20日（水）～25日（月）
後期展Ⅰ期２０２２年７月27日（水）～８月１日（月）
後期展Ⅱ期２０２２年８月３日（水）～７日（日）

会場：東京都美術館
会期：２０２２年７月18日（月）～24日（日）

○洗碑会

日時：２０２２年５月２日（月）16時30分～
会場：傳通院（文京区小石川３―14―６）
内容：創設者中村素堂先生の記念碑『如是我聞』を洗い清める行事

○錬成会

日時：２０２２年２月５日（土）・６日（日）　９時～17時
会場：鵞毛堂錬成会場（さいたま市南区文蔵４―27―３）
内容：毎日書道展、貞香書展に向けての作品制作

貞香会後援の展覧会

○第53回墨光書展

会期：２０２２年10月７日（金）～10日（月）
会場：春日部市民文化会館

○第36回西蓮会書展

会期：２０２２年10月14日（金）～18日（火）
会場：銀座かねまつホール

○第４回素心会書展

会期：２０２２年11月22日（火）～27日（日）
会場：東京銀座画廊美術館８階

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

〈2023年度行事予定〉

■主な展覧会

○2023年度定期総会

日時：2023年1月25日（水）15時～
会場：東京都美術館講堂

○'23貞香会総合書展

会期：2023年1月20日（金）～26日（木）
会場：東京都美術館
授賞式：
ギャラリートーク：
懇親会：
席上揮毫：
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、開催いたしません。

○第64回東方書展

会期：2023年3月25日（土）～3月31日（金）
会場：東京都美術館
企画展示：「扇面展」・「選抜展」※
※赤平泰処先生・中村青藍先生・光谷素仙先生出品同人推挙・作品解説：3月25日（土）11時～
席上揮毫：3月25日（土）14時～
授賞式：3月26日（日）11時～美術館講堂
企画展示解説：3月26日（日）14時～
懇親会：3月26日（日）17時～美術館内レストラン「ミューズ」
東方書道院ホームページwww://tohshodouin.com

○第57回貞香書展

会期：2023年6月28日（水）～7月10日（月）
会場：国立新美術館3A
講演会：
席上揮毫：
ギャラリートーク：
授賞式：
懇親会：
後日お知らせします。

○第74回毎日書道展　東京展（予定）

会場：国立新美術館
会期：2023年7月12日（水）～8月6日（日）
会場：東京都美術館
会期：2023年7月18日（火）～7月24日（月）
表彰式：7月23日（日）13時～
ザ・プリンスパークタワー東京
※各地方展、巡回展については、毎日書道会のホームページをご覧ください。
毎日書道会ホームページ
http://www.mainichishodo.org

■洗碑会

日時：2023年5月2日（火）
16時～　受付
16時30分～　洗碑会
会場：傳通院（文京区小石川3-14-6）
内容：創設者 中村素堂先生の記念碑「如是我聞」を洗い清める行事
毎年、中村素堂先生の誕生日に開催しています。
どなたでも参加できます。
ぜひ、ご参集ください。

■錬成会

日程：2023年
2月4日（土）・5日（日）
9時～17時
会場：鷲毛堂錬成会場
さいたま市南区文蔵4-27-3
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

■貞香会後援の展覧会

○第54回墨光書展

会期：2023年10月6日（金）～9日（月）
会場：春日部市民文化会館

○第37回西蓮会書展

会期：2023年10月13日（金）～17日（火）
会場：銀座かねまつホール

〈事務局だより〉

◇年会費について

２０２２年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇第57回貞香書展の作品締切

２０２３年度は、５月15日（月）～５月19日（金）までを予定しています。必ず開催要項でご確認の上、各表具店に作品を搬入してください。締切厳守でお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までＦＡＸまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さまが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

❖表紙「墨」：中村素堂先生作品「祭墨」より

【編集後記】

❖二〇二二年は、会員の皆様のご協力のおかげで、総合書展と貞香会創立一〇〇年記念貞香書展を開催することができました。第五十六回貞香書展特別展示・中村素堂先生遺墨展のリーフレットと貞香会会報第十二号とをお届けいたします。今後も会員の皆様のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。〈泰邱〉

❖二〇二二年は、コロナ禍三年目でしたが、貞香会創立一〇〇年記念の祝賀会を開催することができました。久しぶりに会員同士の親睦ができ、とても楽しい会で印象的でした。〈彩心〉

❖貞香会創立一〇〇年記念事業を通して、貞香会の歴史を学ぶことができました。今後も新しい歩みに向け、皆様とともに頑張っていきたいと思います。〈蒼秀〉

❖貞香会創立一〇〇年記念の作品集担当になり、一ページ一ページ作成するごとに一〇〇年の重みを、そして素堂先生が以前よりも身近に感じられるようになりました。〈茜逕〉

令和四年度（二〇二二年）
会　報（第十二号）
発行日　令和四年十二月三十一日（土）

編集・発行　**貞　香　会**
東京都江東区新大橋一―五―四―二一一
根本方
電話　〇三（六二八四）〇四六六

印刷・製本　富寿印刷
東京都文京区大塚三―三六―九
電話　〇三（三九四四）一一四一